

第Ⅲ編

[附 表]

附表1：ニセコ地域観光開発史年表

年	ニセコ地域の動向	北海道の動向	全国の動向	世界の動向
1800		伊能忠敬、東蝦夷地を測量		
1845		松浦武四郎、東蝦夷地を探検		
1854		日米和親条約、日露和親条約：(函館・下田開港)		
1857	松浦武四郎が尻別川流域を調査			
1868 (明治1)				
1869 (M2)		開拓使を設置、蝦夷地を北海道と改称	榎本武揚ら降伏し戊辰戦争終結、関所を廃止(国内旅行の自由化)	スエズ運河開通、米国大陸横断鉄道完成
1870				
1871			廃藩置県、初の鉄道開通	
1872		函館にハリストス正教会建設	新橋・横浜間に最初の鉄道 徴兵制	
1873			日光に金谷カッテージイン開業	
1874 (M7)		横浜～函館に定期航路開設(三菱)、屯田兵制度を制定	神戸・大坂間に鉄道	
1875			ロシアと樺太・千島交換条約、江華島事件	
1876 (M9)		札幌農学校開校、札幌に官営ビール醸造所		ベルが電話機発明
1877		札幌農学校の米国人教師が初めてスケートですべる	京都・大坂間に鉄道、西南戦争、東京で第1回国勲業博覧会	インド帝国成立(ウクトリア女王がインド皇帝を称す)
1878 (M11)		道内初の函館新聞創刊、函館～根室定期航路(三菱)、札幌農学校第1回運動会	箱根に富士屋ホテル開業	
1879		幌内炭山開坑、札幌に本願寺別院		
1880 (M13)		手宮・札幌間に最初の鉄道 函館～小樽に定期航路(三菱)		
1881			初の私設鉄道・日本鉄道会社創立	
1882		幌内鉄道開通、開拓使を廃止し函館・札幌・根室3県を設置		ロックフェラーがスタンダード石油トラストを組織
1883				
1884	昆布温泉開湯		鹿鳴館時代始まる、各大学に野球部	
1885	湯本温泉開業		内閣制度創設、第1回ハワイ移民	ダイムラーのガソリン自動車完成
1886 (M19)		函館・札幌・根室3県廃止され、北海道庁が設置さる、定山溪温泉開湯	東大に自転車部創部、東京師範学校が初の修学旅行、軽井沢での避暑が外国人に人気となる	
1887		樽前山噴火		仏領インドシナ成立
1888				
1889 (M22)		幌内炭山と幌内鉄道を北海道炭礦鉄道会社に払下げ	東海道線全通(新橋～神戸)、大日本帝国憲法発布	エッフェルがエッフェル塔建設
1890			コレラが大流行し3.5万人死亡	
1891		北炭、空知炭坑で採炭開始	ウェストンが日本アルプスと命名	ロシアでシベリア鉄道起工
1892	虻田村クッチャン原野開基(初の入植)		天然痘大流行し8400人死亡	
1893	倶知安村の設置(虻田村に戸長役場)	北炭で暴動やストライキ	「貴賓会」設立、日光金谷ホテル開業	福島中佐単独シベリア横断し帰国
1894 (M27)	山田邦吉が温泉源発見(山田温泉)この頃各地で温泉発見さる		志賀重昂『日本風景論』、	日清戦争～1895年
1895		札幌と函館に中学校創設	海水浴場が各地に出現、日本～ハワイ間に定期航路	
1896	倶知安村に駅通を設置	札幌に第7師団設置、函館にトラピスト修道院建設	ウェストン『日本アルプス』	近代第1回オリンピック大会(アテネ)
1897	山田温泉に営業許可、8室で開業		『金色夜叉』で熱海旅行がブーム	
1898		豪雨で各地に被害(特に石狩川流域)		アメリカがハワイ併合
1899		小樽・釧路・室蘭を開港、北海道旧土人保護法公布	東京～大阪/神戸に電話回線開通	
1900		北海道拓殖銀行設立(政府出資は1/3)、札幌～小樽で電話通信開始	河口慧海、ネパール・チベット旅行	
1901 (M34)	分村で狩太村(現ニセコ町)誕生、真狩太・ルベシベに駅通	3社合併で北海タイムス創刊	八幡製鉄所第1高炉に火入れ	
1902		旭川・札幌・小樽間に市街通話開始	青森・八甲田山で大量遭難	
1903		札幌農学校が東北帝大農科大学に	日本初の六甲ゴルフ倶楽部が開	ライト兄弟が飛行に成功

附表1：ニセコ地域観光開発史年表

年	ニセコ地域の動向	北海道の動向	全国の動向	世界の動向
1904 (M37)	北海道鉄道が全線開通(函館～小樽)し、倶知安・比羅夫・真狩・昆布・蘭越各駅開設	北海道鉄道が全線開通(函館～小樽)	横浜で初のサッカー試合、日露戦争～05年	オランダ領東インド成立
1905 (M38)	鉄道利用の登山客誘致で蝦夷富士登山会を設立、羊蹄山登山が始まる	発足小樽～大泊(樺太)間の定期航路開設(日本郵船)	日本山岳会発足、日本旅行会(後の日本旅行)創業、関釜連絡船運航開始	
1906	この頃、国道(現国道5号)開通・認定		鉄道国有法公布さる、南満州鉄道設立	
1907	北鉄線が国有化され、函館本線に		諏訪湖氷滑場(スケート)オープン	
1908 (M41)	倶知安村で火災、159戸焼失	国鉄青函連絡船(第1号)比羅夫丸営業開始	この頃バレーボールやバスケットボールが紹介される	フォードがT型自動車を完成
1909	倶知安に常設競馬場、電話開通、岩内町で火災275戸焼失			
1910	倶知安に後志支庁が開庁、新見温泉に旅館完成	王子製紙苫小牧工場が開業、有珠山鳴動		韓国併合
1911	東山ストーンサークル発見	日本製綱所が開業	レルヒ少佐来日、白瀬中尉南極に	中国で辛亥革命
1912 (大正1)	レルヒ少佐らが羊蹄山にスキー登山	農科大(北大)スキー部創設	ジャパン・ツーリスト・ビューロー(後のJTB)設立、鎌倉で初の林間学校	日本が第5回オリンピックに初参加(ストックホルム)、タイタニック号が大西洋で沈没
1913			(この頃各地でスキーがブームに)	
1914		本道で初のスキー競技会、銭函で	貴賓会が役目を終えて解散	第1次世界大戦開始、パナマ運河開通
1915		支笏湖で丸駒温泉開業		
1916	倶知安で初のスキー大会開催		第1回軽井沢スケート大会開催	
1917	倶知安町に初の電灯	三松正夫ら、洞爺湖畔に温泉を発見	金輸出禁止(金本位制を停止)	ロシア10月革命でソビエト政権樹立
1918 (T7)		定山溪鉄道が白石～定山溪で営業開始	米騒動おこる、	日本軍のシベリヤ出兵
1919 (T8)	京極軽便線(東倶知安線)開通、この年から北大スキー部が昆布温泉でスキー合宿開始		雑誌『キネマ旬報』創刊	ドイツが降伏しパリ講和会議、米国で禁酒法～1933年
1920	北大スキー部が羊蹄山スキー登山成功、五色温泉開業(井上旅館)	最初の全道中学校スキー大会開催	第1回東京一箱根往復駅伝、国際連盟成立し日本も加入	
1921	王子製紙尻別第1発電所竣工	内務省が道内の史跡名勝天然記念物を指定(羊蹄山の高山植物など)	雑誌『山とスキー』創刊(1930年廃刊)、日本庭球協会設立	
1922 (T11)	有島武郎が小作人に農場解放(翌年、軽井沢で心中)	北大スキー部員が旭岳に登頂、札幌など6市に市制施行		ソビエト連邦成立、ムソリーニ・ファシスト内閣
1923 (T12)	この頃ニセコアン(ひらふ)スキー場が開設さる	北海道山岳会発足、第1回全日本スキー選手権大会が小樽で開催、北海道三景(利尻富士・定山溪・洞爺湖)	関東大震災で死者・不明者14万人、帝国ホテル新本館(ライト設計)	
1924	倶知安スキークラブ結成		第1回中等学校野球大会、甲子園球場完成、雑誌『旅』創刊	第1回冬季オリンピック大会(シャモニー)、米国議会で排日移民法可決
1925		青函航路で貨車輸送を開始	全日本スキー連盟発足、治安維持法・普通選挙法公布さる	米国で実用的TV発明さる
1926 (昭和1)	王子製紙第2発電所竣工	十勝岳大爆発、青森・函館間に電話線開通(本州・北海道間発着連絡)	大正天皇崩御し昭和天皇へ	
1927	紅葉谷温泉(現昆布温泉郷)が湧出	第2期北海道拓殖計画(20年計画)	金融恐慌始まる、日本新八景選定	リンドバーク大西洋無着陸横断飛行
1928 (S3)	秩父宮がニセコでスキー登山、小樽スキークラブ60名がスキー登山(初の団体)この頃から東洋のサンモリッツと呼ばれる	(このころニセコ近辺で山小屋建設のラッシュ)、NHK札幌放送局が開局		日本が第2回冬季オリンピックに参加(サンモリッツ)
1929 (S4)	札幌～昆布間で初のスキー列車運転、倶知安商工会設立	高松宮が手稲山などでスキー登山、駒ヶ岳大爆発	東海道線の清水トンネル開通	ニューヨークで株価大暴落で世界不況へ、スターリンの独裁始まる
1930 (S5)	倶知安競馬場完成、札幌局が毎金曜日にニセコ各スキー場の積雪状況発表	札幌で第1回宮様スキー大会開催	金輸出解禁、鉄道省に国際観光局設置、雑誌『山と渓谷』発行	ロンドン軍縮会議
1931			国立公園法公布	満州事変
1932 (S7)	中越正がスキー製造を開始(ニセコスキーの前身)	後志スキー連盟、北海道スキー連盟、大倉シャンツェ開場	この頃、レジャーとしてのスキー盛んに、第1回日本ダービー開催	満州国建国され、溥儀が執政就任
1933 (S8)		札幌飛行場が完成、樽前山大爆発	第1回日本ヨット選手権大会、日本が国際連盟脱退	米国でスキーリフト考案、米国でニューディール政策～36、ヒトラー独首相に
1934 (S9)	倶知安に初の大仏寺シャンツェ	札幌で北海道ゴルフ連盟創設 札幌グランドホテル落成式、阿寒と大雪山が国立公園に指定さる	東海道線の丹那トンネルが着工以来16年ぶりに開通、初の国立公園、プロ野球	中国共産党の長征～36
1935	倶知安で全日本スキー大会地方予選	北海道山岳会が解散、人口306万人	熱海トンネル開通で熱海新婚旅行ブーム、ハイキングが人気に	

附表1：ニセコ地域観光開発史年表

年	ニセコ地域の動向	北海道の動向	全国の動向	世界の動向
1936 (S11)		道央での陸軍特別大演習に天皇陛下が来道	2・26事件	フランス人民戦線内閣で2週間の有給休暇制度化、フォルクスワーゲン製造開始
1937 (S12)	五色温泉に国鉄山の家が開業、この頃からニセコの夏山ハイキング	北海道大博覧会が札幌・小樽で開催、『新撰北海道史』全7巻刊行	東京～羽田間の民間定期航空開始、トヨタ自動車工業設立	廬溝橋事件～日中戦争へ
1938	ひらふコースが初の公式大会々場に	ガソリン切符制度を実施	日本カヌー協会設立、国家総動員法発令	
1939		朝鮮人労働者の強制連行始まる	(この頃スキーヤーが急増)	米国でTV放送開始
1940	北電ひらふ発電所竣工	道庁警察部が風俗営業の取締り強化	全日本スキーが時局がらスキー界の自粛呼びかけ(ゴルフも)	(東京オリンピック中止)
1941 (S16)	胆振縦貫鉄道完成(倶知安～伊達)	札幌地区のバス業者21社が合同して中央乗合自動車が発足(現中央バス、資本金135万円)	真珠湾攻撃で太平洋戦争始まる	
1942	蝦夷富士登山会が解散	道内の11紙統合して北海道新聞発足		映画「カサブランカ」公開
1943	羊蹄山頂に軍事用気象観測小屋設置			学徒動員へ
1944		昭和新年誕生、青函連絡船が全滅、室蘭など各地が爆撃される		シカゴ条約締結で戦後の民間航空制度化
1945 (昭和2)	~~~~~ 第2次大戦終了 ~~~~~			
1946		北海道観光連盟設立(4月)	全日本観光連盟設立、第1回国体、憲法公布	
1947	第1回ニセコ滑降大会開催	国勢調査で人口385万人	日本国憲法施行	米国がマーシャルプラン発表
1948	第1回羊蹄山麓一周駅伝と山麓じゃがいも祭りを開催	札幌で初の国営競馬開催、藻岩山に国内初のスキーリフト(米軍専用)	サマータイム実施(52年廃止)、旅館業法制定	戦後初のオリンピック、ベルリン封鎖
1949 (S24)	倶知安観光協会と狩太観光協会(現ニセコ町観光協会)発足、蘭越町で大火	支笏・洞爺湖、国立公園に指定さる	運輸審議会設置、日本国有鉄道発足、単一為替レート設定1ドル=360円、映画「青い山脈」ヒット	中華人民共和国成立、NATO調印
1950 (S25)	アンヌプリ滑降コース利用開始、ニセコ観光自動車(ニセコバス)設立、ニセコ連峰が道立公園に指定さる	第1回さっぽろ雪まつり開催(2月)、北海道開発行発足、北海道拓殖銀行が普通銀行に転換	東京～草津間にスキーバス、新日本観光地百選、『チャタレー夫人の恋人』発禁処分	朝鮮戦争～1951年
1951		日航が東京-札幌間空路開設、北海道開発局設置さる、丸山動物園	日本航空機設立、サンフランシスコ対日講和条約	
1952 (S27)		北海道総合開発第1次5ヶ年計画(1952～57)	新道路法施行で道内7路線1522kmが1級国道に指定、旅行斡旋業法制定、雑誌『ゴルフマガジン』	日本が戦後オリンピックに初参加(ヘルシンキ)
1953	観光狩太小唄を制定	札幌-千歳間の弾丸道路開通	NHKがテレビ放送、紅白歌合戦	ヒラリー・テジツンがエベレスト初登頂
1954	天皇・皇后がニセコ訪問、岩内で大火	台風15号で青函連絡船5隻沈没	怪獣映画「ゴジラ」封切り、カ道山	
1955		ニシン凶漁、国勢調査人口477万人	各地でスキーリスト架設が盛んに	アジアアフリカ・バンドン会議
1956 (S31)		低温で1913年以来の大凶作、北海道開発公庫営業開始	国際連合に加盟、日本山岳会登山隊がマナスル登頂に成功、国民宿舎設置開始	スエズ動乱・ハンガリー暴動
1957 (S32)	ニセコ周辺観光開発協会設立、ニセコ温泉群が国民保養温泉郷に指定さる	原田康子『挽歌』女流文学賞	南極昭和基地開設、観光基本法、カナダカップで中村組優勝しゴルフがブームに	ソ連の人工衛星第1号成功、EEO発足
1958		北海道総合開発第2次5ヶ年計画(1958～62)、道の人口500万人突破	この頃からスキー場開発が活発化、1万円札発行	英国探検隊、南極大陸横断に成功
1959 (S34)		千歳飛行場が米軍から返還され防衛庁管理へ	(この頃からマイカー時代開始)日本旅行業協会・日本観光協会・国際観光振興会設立、皇太子ご成婚で第1期テニスブーム、TV番組「兼高かおる世界の旅」開始(～1990年)	
1960	週末スキー列車が札幌から狩太間運行	全日空が札幌～東京間1'55"の記録	流行語「三種の神器」、池田内閣所得倍増計画、国民休暇村構想	OPEC結成
1961	ニセコ高原観光(株)発足し、ひらふスキー場に国内最長のスキーリフト建設	ニセコ循環道路完成(着工S25年～)	スキー人口100万人超、登山人口224万人、国内航空旅客100万超	東独、東西ベルリン境界に壁を構築
1962 (S37)	全日本スキー選手権大会がひらふスキー場で開催、本州から初のスキー観光団57人(JTB扱い)が倶知安へ、ニセコ高原スキー場民宿組合発足	後志観光連絡協議会設立、比羅夫駅からひらふスキー場間に国鉄バスが冬季運行開始され以後利用者急増	日本最長の北陸トンネル開通、戦後初の国産旅客機YS11飛行成功、堀江謙一ヨットで太平洋横断、国民休暇村第1号が鳥取に	中国とLT貿易開始
1963 (S38)	ニセコ積丹小樽海岸が国定公園に指定さる、旧有島記念館完成	第2期北海道総合開発計画(1963～1970)目標を産業構造の高度化に、女満別空港使用開始	観光基本法、黒四ダム完成	ケネディ大統領暗殺

附表1：ニセコ地域観光開発史年表

年	ニセコ地域の動向	北海道の動向	全国の動向	世界の動向
1964 (S39)	狩太町をニセコ町と改称、倶知安町がスイス・サンモリッツと姉妹都市、道立ニセコ・ユースホテル完成	中央バスがニセコ・スキー定期観光バス運行開始(札幌～ひらふ～札幌)、倶知安シャンツェ完成、帯広空港開港、知床半島が国立公園指定、道東の三白観光キャンペーン	東京オリンピック開催、海外渡航自由化、東海道新幹線と名神高速道路開業、OECD加盟、第1回観光白書、深田久弥『日本百名山』	米国で公民権法案成立、カシアス・クレイがヘビー級チャンピオンに
1965 (S40)	ニセコ羊蹄ゴルフコース開設、主要道でニセコ留寿都間の舗装が完成、道立ユースホテルが旭ヶ丘に竣工	ニセコキャラバン隊を編成して道内を巡回、中標津空港供用開始	日韓基本条約調印、JALPAK発売、国際線GIT運賃登場	米空軍の北ベトナム爆撃開始
1966 (S41)	太平洋クラブ国際モイワスキー場開設、国民宿舎雪秩父が完成	雪祭り客を乗せて全日空機が東京湾に墜落	第1回赤字国債発行、全国旅行者協会設立、雑誌『スキージャーナル』	中国文化大革命～1977年終結
1967	函館本線初の特急「北海」運行開始、チセヌプリスキー場が開業(蘭越町営)	釧路湿原が天然記念物に指定	公害対策基本法施行	第3次中東戦争勃発、EC発足
1968 (S43)	駅名「狩太駅」を「ニセコ駅」に改名、ニセコ高原振興会(リフト+宿泊施設業者)発足(後にひらふスキー場振興会)	十勝沖地震発生、北海道百年祝典、国道230号線定山溪～喜茂別間中山峠完成	世界的に学生運動盛り上がる、キング牧師やRケネディ暗殺	
1969 (S44)	北電が原子力発電所建設を共和町・泊地区に決定	定山溪鉄道が鉄道部門を廃止	東名高速道路が全通、映画「男はつらいよ」第1作、雑誌『マリンダイビング』、新石炭政策で廃鉱進む	アポロ11号、初めて月面に到達
1970 (S45)	倶知安で冬季国体(スキー)開催、観光農園「ポテト園」誕生、羊蹄山麓地方で分譲別荘地ブーム(原野商法被害も)	後志観光連盟設立、小樽～舞鶴間に長距離フェリー就航	大阪万国博開催(6400万人)、雑誌『an・an』創刊(翌年『non・no』)、草津温泉に初のペンション、国鉄が「ディスカバー・ジャパン」大キャンペーン開始	ジャンボジェット機初就航、ウーマンリブ
1971 (S46)	国設ワイススキー場開業、ニセコ山系観光開発策定協議会発足(国・倶知安)、ニセコ山系観光開発公社設立	第3期北海道総合開発計画(1971～1977)	歌「知床旅情」大ヒットし北海道ブームに、運輸省がキャンピングトレーラー製造認可、環境庁設置	米国がドル防衛策発表、中国が国連加盟し台湾脱退、スミソニアン体制
1972 (S47)	ニセコアンスプリ国際スキー場開設(中央バス、リフト3基)、倶知安町「スキーの町」を宣言、ニセコ山系観光開発公社設立(3セク)、国労共済の「勤労者休暇村計画」が構想されるも1984年に断念、ニセコ連山が自然休養林内定	札幌で第11回冬季オリンピック開催、全日空がスキーツアーのバック旅行販売開始(初年度2,500人のみ)、道が「冬こそ北海道」キャンペーン	沖縄が日本に復帰、田中角栄内閣発足し列島改造で土地投機、情報雑誌『ぴあ』創刊	米中首脳会談、ウォーターゲート事件、日中国交正常化
1973 (S48)	(ひらふ全体の宿泊収容力1600名となる)	(オイルショックによるセメント不足で各種建設工事に大打撃)、冬季の阿寒国立公園が全周通行可能に、東京～釧路がジェット化	第1次石油危機で狂乱物価、円が変動為替相場制に移行、第1回余暇白書、雑誌『るるぶ』創刊	第4次中東戦争勃発、第1次石油危機発生
1974 (S49)	建設省による大規模レクリエーション基地構想がニセコを候補に決定(しかし1984年頃に断念)、国鉄「山の家」新築工事完成、北海道新幹線ニセコ駅誘致住民大会	東京～札幌間にジャンボ機就航、日航がスキーツアーのバック旅行販売開始	国土庁発足、東海自然歩道、競馬ブームの中でハイセイコーが引退し新冠町へ	トルコ航空エアバスがパリで墜落
1975 (S50)	ニセコ高原カントリークラブの造成終了するも石油危機で開業せず、ニセコ高原ホテル開業(ニセコ高原観光(株)後に東急系に)、蘭越町観光協会が発足		沖縄で国際海洋博開催、新幹線が東京～博多間まで全通、沢松和子組が全英テニス選手権で優勝し第2期テニスブーム、日本旅行業協会に改組	ベトナム戦争終結、第1回先進国首脳会議(サミット)開催、世界観光機関(WTO)設立
1976 (S51)	第1回北海道雪の祭典ニセコで開催、リフト4社で共通リフト券発行合意	第1回北海道雪の祭典が開催、苫東港の港湾建設作業始まる	ロッキード疑獄事件、植村直己北極圏横断、雑誌『OUTDOOR』創刊(2001年休刊)	第1回冬季パラリンピック、米国探査機が火星に軟着陸成功、映画「ロッキー」
1977	(曾我地域で西武が用地買収中)	有珠山32年ぶり大噴火、知床100m ² 運動(ナショナル・トラスト運動)	第1次ペンションブーム、第1回ミラー・ジュボウル、歌「あずさ2号」	超音速旅客機コンコルド就航、中国で鄧小平復活
1978 (S53)	有島記念館閉館、(この頃からひらふでペンション開業相次ぎ、振興会内に不安感)、ニセコ町がマキノ町と姉妹都市提携	北海道新総合開発計画(1978～87)、道内初の独立国「アホーツク共和国連邦」、日高ケンタッキーファーム開業	成田空港が開港、日中平和友好条約調印、円高で1ドル=180円割る、国鉄キャンペーン「いい日旅立ち」	植村直己が犬ぞりで単独北極点到達
1979 (S54)	(ひらふスキー場内宿泊施設の新築・増築ブームが起り、収容人員数25%拡大)、道南バスが札幌からスキーバス運行	小樽天狗山スキー場完成(中央バス)、道環境アセスメント条例施行	札幌～羽田間旅客が400万人を超え世界一に、第2次石油危機、サーフィンがブームに	イラン革命、サッチャー保守党内閣～1990年
1980 (S55)	「ニセコ山系観光連協協議会」発足、○夏季対策でテニスコート増加が計画されテニス客誘致促進開始、●第18回じゃが祭りで尻別川イカダ流し実施	この頃から北海道でペンション・ブーム、知床横断道路開通、北海道開発予算1兆円を超す、千歳空港駅開業	国鉄フルムーン切符、(1980年現在、リフト設置スキー場は道内に56ヶ所)	イランイラク戦争～1988

附表1：ニセコ地域観光開発史年表

年	ニセコ地域の動向	北海道の動向	全国の動向	世界の動向
1981 (S56)	西武の堤社長がニセコ東山スキー場等一連の開発計画を発表、「ニセコいこいの村」オープン(雇用促進事業団が町有地に建設)、倶知安4スキー場の共通リフト券発行開始	関兵精麦がアルファリゾートマム開発を決定(2年後に開業)、大和ルスツスキー場営業開始(1989年ルスツリゾートに改称)、大手旅行会社の共同企画スキーツアーが商品化する	初のトライアスロン大会、第1回トヨタカップ(サッカー)、国民保養温泉地、TVドラマ「北の国から」放送開始(2002年最終回)、神戸ホービー	スペースシャトル初飛行
1982	ニセコ東山スキー場開業、ニセコ東山プリンスホテル開業・大型ディスコ好評	小樽運河埋立て正式決定、北海道博覧会が札幌で開幕、石狩湾新港	東北新幹線・上越新幹線開通、ホテル・ニュージャパン火災	フォークランド島沖海戦
1983 (S58)	道々岩内洞爺線が全通、夏季集客でひらふ地区駐車場のテニスコート用舗装化など、ペンション建築ラッシュ	トマムでホテルとスキー場が開業、北海道開拓の村が札幌に開園	東京ディズニーランドと長崎オランダ村(ハウステンボス)開業 、日本で世界オートキャンプ大会、「余暇」が流行語になりレジャーブームへ、三宅島噴火	KAL機サハリン沖撃墜事件
1984 (S59)	クサダラケ共和国・ポテト共和国・バル共和国独立宣言、美笹峠新ルート(国道276)開通で千歳空港～アンヌプリ直行スキーバス運行、全通がホテル・ユニオン建設(不振で86年閉館)	小樽博覧会開幕、仁木町にアリスファームが進出	この頃全国でミニ共和国ブーム、オートキャンプ人口約400万人に、男女とも日本が世界の長寿国に(男子74歳、女子79歳)	アフリカで飢饉深刻化
1985 (S60)	第1回ミニ独立国サミットに15国・グループ参加、ホテル日航アンヌプリ開業、仙台から直通スキー列車(～1996年まで)、倶知安サーキット開業、ニセコ高原観光の経営権が東急不動産に委譲	リゾート専用列車アルファコンチネンタルエクスプレス(札幌～トマム)、道内初の家族旅行村が古平にオープン	日航機が御巢鷹山に墜落し520名死亡、筑波で科学万博開催	G5によるプラザ合意で円高へ(当時1ドル=240円台)
1986 (S61)	倶知安で冬季国体(スキー)開催 、ニセコ連峰5町「ニセコ国際健康文化都市協議会」発足、「ニセコ・エクスプレス」発行開始、ニセコゴルフコース開業	道々・岩内洞爺線が開通しパノラマラインと命名、札幌で第1回冬季アジア大会開催、JR胆振線が廃止(67年間運行)	キャンプ人口5000万人突破、円相場統騰、前川レポート提出さる、(全国のスキー場611ヶ所に)	NY株式大暴落、チェルノブイリ事故
1987 (S62)	第1回ツールド・北海道開催で、ひらふが第1・2ステージの終点・起点になる、第12回北海道雪の祭典(最後の祭典)	国鉄民営化、JR北海道誕生、釧路湿原が国立公園(道内6番)、サホロ・パカノ村開業、第1回ツールド・北海道	リゾート法施行、テンミリオン計画発表、映画「私をスキーに連れてって」が流行し空前のスキーブーム、国鉄が分割・民営化(7社)、円高加速し1ドル=139円に、日本航空が完全民営化	国連、世界人口が50億人突破と発表、ソ連でベレストロイカ始まる
1988 (S63)	ニセコ駅舎落成、千歳～ニセコ間にスキー特急ニセコエクスプレス号運行開始、ハンカライティング日本選手権大会開催、手作りカヌー大会が開催さる	青函トンネル開業・最後の青函連絡船、 新千歳空港開港 北海道アウトキャンプ協会設立、第5期北海道総合開発計画(1988～1997)、世界・食の祭典開幕で90億円赤字	東京ドーム開業、「ふるさと創生」事業で全国市町村に1億円交付、瀬戸大橋開通、東証平均株価3万円台、シマ現象	イランイラク戦争終結
1989 (平成1)	ニセコ東急リゾートのゴンドラが夏季運行開始、東京でアンケート調査し夏・秋の観光として自然景観保護の重要性認識、	道内各地空前の観光ブーム、釧路で湿原サミット、KALソウル線就航、帯広グリュック王国開業、道庁「北海道観光振興基本計画」策定、釧路フッシャーマンズワーフ開業	平成時代へ、消費税導入(3%)、リゾートマンション乱立	ベルリンの壁撤去開始、北京で天安門事件
1990 (H2)	東急リゾートが投資総額500億円の大規模リゾート開発計画発表、倶知安ジャズフェスティバル開幕、ニセコ東山乗馬園オープン、ニセコ高校に緑地観光科スタート、SLニセコ号	札幌でアジア冬季競技大会開催、PMF開幕、芦別カナディアンワールドと登別マリナーパークニクス開業	海外旅行者1099万人、クルージングブーム、北九州スペースワールド開業、雑誌『じゃらん』創刊、証券不況本格化、即位の礼	ドイツが統一達成
1991 (H3)	内山賞制定、ニセコマウンテンバイクジャパンオープン開催、湾岸戦争効果でスキー場活況、ひらふ宿泊施設112軒に	道内の独立国が44に急増、札幌ユニバーシアード冬季大会開催	バブル景気崩壊、スキーバスツアー全盛、雲仙普賢岳の異常噴火、日本海外オペレーター協会発足	ソビエト連邦消滅、湾岸戦争
1992 (H4)	ニセコ東急ゴルフコース開業(旧・ニセコ高原カントリークラブの施設が復活)、西武のゴルフ場ープリンスコースが開業(東山コースは95年に開業)	札幌で第1回よさこいソーラン祭り開催、 カンタス航空札幌～ケアンズ定期便運航開始 、新千歳空港の新旅客ターミナル開業	学校の週休2日制始まる、キャンプ人口1350万人、ゴルフ場新設131ヶ所でピーク、新幹線のぞみ	リオで地球環境サミット開催、92年の日本の貿易黒字が1000億ドル突破
1993 (H5)	ニセコ経済懇話会発足、4スキー場に共通リフト券導入(フリーパスポート)、ニセコ駅に観光案内所設置、○パラグライダー日本選手権ニセコ大会	北海道南西沖地震発生、エイペックスリゾート洞爺開業、札幌テレメインターナショナル開業、北海道オートリゾートネットワーク協会設立、札幌ファクトリー開業	Jリーグ開幕、道の駅政策、環境基本法施行、国土庁「新たなリゾート振興方策」	EU(欧州連合)発足、GATTのウルグアイ・ラウンドが最終合意
1994 (H6)	尻別川フォーラムが今年から毎年開催、ニセコ東山プリンスホテル新館完成、ニセコ大橋開通(全長380m)、逢坂ニセコ町長就任(全国最年少)	蘭越町にキララ共和国が発足(道内で44番目のミニ独立国)、地ビール第1号のオホーツクビール、函館～ユヅノサハリンスク定期航空便開設	関西国際空港開港、名古屋空港で中華航空機が墜落246名死亡、RV車オデッセイ、日本から直航便化でバリ島旅行人気	英仏海峡でユーロトンネル開業

附表1：ニセコ地域観光開発史年表

年	ニセコ地域の動向	北海道の動向	全国の動向	世界の動向
1995 (H7)	ポテト共和国に体験型修学旅行が目立ち始める、R.フィンドレーが道内初のラフティングを尻別川で開始(1500人を集客)、この頃からオーストラリア人企業家が親水スポーツ事業に進出開始	拓銀が創業以来95年目で初の赤字決算	阪神・淡路大震災、地下鉄サリン事件、円高で1ドル80円台に、スノーボード流行、旅行業法改正で責任強化	
1996 (H8)	NAA(ニセコアクティブアソシエーション)が発足しアウトドア体験の予約を一本化、しりべつリバーネットが発足、尻別川のカヌー転覆事故で1人死亡	エアドゥ設立(98年就航)、国道229号線・豊浜トンネル事故発生	スカイマークエアラインズ設立(98年就航)、平成7年の余暇市場85兆円に、ウォーキング・トレイル事業(建設省)、アウトドア志向が一層増大	
1997 (H9)	道の駅ニセコビュープラザ開設、ニセコひらふ共同組合が体験メニュー紹介サービス開始、ニセコに道の駅開設	拓銀が破綻、函館～青森高速フェリー就航、道内人口570万人、うまの道NW協会	SAIL OSAKA'97(アジア初の国際帆船レース)、アイヌ文化振興法成立、秋田新幹線・長野新幹線開業、河川法の改正	アジアで通貨危機、COP3で京都議定書採択、香港が中国復帰
1998 (H10)	北海道ニセコ・羊蹄・洞爺周辺がリゾート法の42番目の承認、「ニセコ尻別川宣言」、雪上ツアーに参加した2名が雪崩事故で死亡	北海道ブームで外国人観光客17万人に、エアドゥ就航、カンタス航空の新千歳便が運航休止、独立国サミット閉幕、エイベックス倒産、テルメ3社自己破産、アルファ・コーポレーション倒産、新北海道観光振興基本計画、第6期北海道総合開発計画	長野オリンピック開催、スカイマークエアライン就航、W杯フランス大会でチケット不足問題、明石海峡大橋(3.9km)開通し世界一となる	スハルト大統領辞任、マグワイヤーが本塁打70本の大リーグ記録樹立
1999 (H11)	6社で尻別川ラフティング・カヌー組合発足、「ぐらんぶる・しりべし号」運行開始、羊蹄山で登山ツアー中に遭難、ニセコ町観光大使制度が発足	「北海道の観光を考える100人委員会」発足、マイカル小樽開業	「食料・農業・農村基本法」(新農基法)成立、瀬戸内しまなみ街道開通、iモード登場	
2000 (H12)	道庁が合併推進要綱を提示し山麓7町村の合併論議がスタート、尻別川ラフティング基地に駐車場造成	有珠山大噴火、しりべつリバーネットがNPOに認定、エバー航空のプログラム・チャーター便就航開始、雪印中毒	航空法改正で国内運賃自由化	パリでコンコルド機墜落
2001 (H13)	全国アウトドアスポーツフェアが後志で開催、しりべつリバーネットが『ニセコ歴史・ロマンの道』発行、R.フィンドレーが創業・ベンチャー国民フォーラムで地域振興賞受賞	北海道アウトドア協会が発足、北海道アウトドア活動振興条例施行、「北海道観光のくにつくり条例」制定、尻別川が2年連続で1級河川の清流日本一に、北海道開発庁廃止さる、キャセイ航空が香港便の運航再開	建設・銀行・流通などで経営破綻相次ぐ	米国で同時多発テロ事件(9・11)発生、その後アフガニスタンで掃討作戦展開
2002 (H14)	この頃からオーストラリア人観光客(スキー客)が急増し始める	ザ・ウィンザーホテル洞爺が再開業	サッカーW杯日韓で開催	バリ島で爆弾テロ事件、世界的IT不況
2003 (H15)	ニセコ観光協会が全国に先駆けて株式会社化	台湾のエバー航空が定期便運航開始、「シーニックバイウェイ北海道」のモデル取組みが千歳～ニセコ・ルート等で開始	有事関連法・個人情報保護法が成立	米英軍が対イラク戦争を開始、新型肺炎(SARS)が世界的流行
2004 (H16)	豪州系の日本ハーモニーリゾート社が花園スキー場(東急系)等を買収、豪州人企業家による不動産事業が活発化	オーストラリア航空が札幌～ケアンズ定期便運航開始(冬季運航)	新潟県で中越地震発生	アテネ・オリンピック開催、NY市場の原油先物相場で市場初の50ドルを突破、アジアで鳥インフルエンザが猛威
2005 (H17)	外国人観光客急増を背景に、「倶知安町外国人観光客誘致・受入促進協議会」が発足	知床が世界遺産に登録、北海道新幹線(新函館～新青森)着工、札幌・モエレ沼公園本格オープン	愛知万博(愛・地球博)開催さる	米国の航空会社大手が原油高等の影響で経営破たん

附表2：平成16年度市町村別・月別観光入込客数

単位：千人、％
単位：千人、％

圏域	支庁	市町村名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期計	年間合計	15年度	対前年比
		札幌市 (定山渓を除く)	入込総数	808.0	983.0	1,060.0	1,173.1	1,182.4	1,113.8	6,320.3	1,041.6	888.3	719.0	672.0	711.0	763.9	4,795.8	11,116.1	11,243.9	98.9
			内道外客	283.9	388.9	535.8	682.0	673.9	562.7	3,127.2	414.0	330.1	296.8	275.7	325.7	304.7	1,947.0	5,074.2	5,490.8	92.4
			内道内客	524.1	594.1	524.2	491.1	508.5	551.1	3,193.1	627.6	558.2	422.2	396.3	385.3	459.2	2,848.8	6,041.9	5,753.1	105.0
			内日帰客	535.3	575.6	550.0	617.2	591.8	579.7	3,449.6	652.3	593.1	410.3	340.5	314.1	426.3	2,736.6	6,186.2	6,565.4	94.2
			内宿泊客	272.7	407.4	510.0	555.9	590.6	534.1	2,870.7	389.3	295.2	308.7	331.5	396.9	337.6	2,059.2	4,929.9	4,678.5	105.4
			宿泊客延数	461.8	644.5	736.3	798.6	882.9	812.3	4,336.4	669.5	529.3	574.7	570.6	685.6	610.5	3,640.2	7,976.6	7,793.7	102.3
道央圏域	後志支庁計	入込総数	1,239.6	2,169.4	2,234.6	2,925.6	3,510.1	2,187.3	14,266.6	1,914.7	922.0	1,129.0	1,406.5	1,475.5	1,336.2	8,183.9	22,450.5	23,383.9	96.0	
		内道外客	318.4	504.7	617.6	702.8	813.3	596.2	3,553.0	387.3	176.6	359.6	463.5	415.5	442.4	2,244.9	5,797.9	5,944.3	97.5	
		内道内客	921.2	1,664.7	1,617.0	2,222.8	2,696.8	1,591.1	10,713.6	1,527.4	745.4	769.4	943.0	1,060.0	893.8	5,939.0	16,652.6	17,439.6	95.5	
		内日帰客	1,083.3	1,996.7	2,004.5	2,589.8	3,067.0	1,902.7	12,644.0	1,748.3	843.5	950.1	1,163.3	1,263.1	1,108.6	7,076.9	19,720.9	20,605.4	95.7	
		内宿泊客	156.3	172.7	230.1	335.8	443.1	284.6	1,622.6	166.4	78.5	178.9	243.2	212.4	227.6	1,107.0	2,729.6	2,778.5	98.2	
		宿泊客延数	197.5	193.1	254.0	380.1	508.7	322.7	1,856.1	195.5	88.2	238.1	326.5	273.6	291.5	1,413.4	3,269.5	3,329.3	98.2	
		二七〇町	入込総数	59.0	138.2	117.0	147.6	193.7	130.5	786.0	73.0	26.5	125.5	185.0	176.8	137.3	724.1	1,510.1	1,504.9	100.3
			内道外客	23.6	55.3	35.1	59.0	77.5	52.2	302.7	29.2	8.0	75.3	111.0	106.1	82.4	412.0	714.7	680.2	105.1
			内道内客	35.4	82.9	81.9	88.6	116.2	78.3	483.3	43.8	18.5	50.2	74.0	70.7	54.9	312.1	795.4	824.7	96.4
			内日帰客	51.9	120.9	85.1	111.3	144.1	90.7	604.0	45.2	15.8	93.5	124.5	127.1	89.0	495.1	1,099.1	1,091.0	100.7
			内宿泊客	7.1	17.3	31.9	36.3	49.6	39.8	182.0	27.8	10.7	32.0	60.5	49.7	48.3	229.0	411.0	413.9	99.3
			宿泊客延数	11.4	18.6	32.7	46.1	64.5	51.0	224.3	32.3	11.8	39.1	72.4	59.0	55.7	270.3	494.6	537.1	92.1
		倶知安町	入込総数	193.5	28.7	109.5	135.6	172.7	149.0	789.0	37.1	8.3	110.7	202.6	147.6	185.7	692.0	1,481.0	1,413.6	104.8
			内道外客	47.2	8.1	25.3	31.6	43.0	189.8	7.4	1.2	54.0	95.6	71.3	81.7	311.2	501.0	478.7	104.7	
			内道内客	146.3	20.6	84.2	104.0	129.7	114.4	599.2	29.7	7.1	56.7	107.0	76.3	104.0	380.8	980.0	934.9	104.8
			内日帰客	119.0	19.0	67.0	84.2	107.3	89.6	486.1	30.9	7.0	79.7	158.2	115.2	141.3	532.3	1,018.4	977.1	104.2
			内宿泊客	74.5	9.7	42.5	51.4	65.4	59.4	302.9	6.2	1.3	31.0	44.4	32.4	44.4	159.7	462.6	436.5	106.0
			宿泊客延数	102.8	13.5	50.2	58.1	78.5	66.6	369.7	7.0	1.4	55.8	82.1	58.5	73.2	278.0	647.7	611.0	106.0
		共和町	入込総数	1.1	2.1	23.0	34.5	72.5	74.1	207.3	83.3	1.2	0.9	0.9	0.2	0.7	87.2	294.5	243.4	121.0
			内道外客	0.2	0.2	5.8	4.5	10.1	8.5	29.3	10.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	10.5	39.8	29.6	134.5
			内道内客	0.9	1.9	17.2	30.0	62.4	65.6	178.0	73.2	1.1	0.8	0.8	0.2	0.6	76.7	254.7	213.8	119.1
			内日帰客	1.0	1.8	22.1	32.8	71.8	72.2	201.7	82.4	1.0	0.8	0.8	0.2	0.6	85.8	287.5	241.1	119.2
			内宿泊客	0.1	0.3	0.9	1.7	0.7	1.9	5.6	0.9	0.2	0.1	0.1	0.0	0.1	1.4	7.0	2.3	304.3
			宿泊客延数	0.2	0.3	0.9	1.8	0.7	1.9	5.8	1.0	0.2	0.1	0.1	0.0	0.1	1.5	7.3	2.8	260.7
		岩内町	入込総数	33.1	57.8	46.4	126.6	143.0	49.2	456.1	44.5	21.8	20.9	27.5	21.9	24.2	160.8	616.9	625.1	98.7
			内道外客	1.4	1.4	0.8	1.5	3.7	2.2	11.0	1.8	0.1	0.3	0.3	0.4	1.0	3.9	14.9	14.5	102.8
			内道内客	31.7	56.4	45.6	125.1	139.3	47.0	445.1	42.7	21.7	20.6	27.2	21.5	23.2	156.9	602.0	610.6	98.6
			内日帰客	25.7	49.5	38.0	114.0	126.3	37.4	390.9	34.0	17.5	17.0	23.2	17.5	18.7	127.9	518.8	509.7	101.8
	内宿泊客		7.4	8.3	8.4	12.6	16.7	11.8	65.2	10.5	4.3	3.9	4.3	4.4	5.5	32.9	98.1	115.4	85.0	
	宿泊客延数		8.1	9.1	9.2	13.9	18.4	13.0	71.7	11.5	4.7	4.3	4.8	4.7	6.0	36.0	107.7	126.8	84.9	
	蘭越町	入込総数	46.5	95.1	85.5	88.4	105.0	85.5	506.0	100.5	42.6	43.3	79.5	56.9	55.5	378.3	884.3	800.8	110.4	
		内道外客	4.2	11.4	10.5	21.4	28.9	16.5	92.9	9.9	3.0	1.9	5.3	4.8	4.7	29.6	122.5	97.1	126.2	
		内道内客	42.3	83.7	75.0	67.0	76.1	69.0	413.1	90.6	39.6	41.4	74.2	52.1	50.8	348.7	761.8	703.7	108.3	
		内日帰客	41.9	68.7	65.4	58.8	67.0	62.7	364.5	91.6	38.2	39.7	73.5	51.6	50.3	344.9	709.4	651.2	108.9	
		内宿泊客	4.6	26.4	20.1	29.6	38.0	22.8	141.5	8.9	4.4	3.6	6.0	5.3	5.2	33.4	174.9	149.6	116.9	
		宿泊客延数	5.3	30.4	23.1	34.0	43.7	26.2	162.7	10.2	5.1	4.1	6.9	6.1	6.0	38.4	201.1	207.7	96.8	

タイプ	企業名(代表者)	事業開始	事業概要								備考 (特徴など)
			夏季観水 スポーツ	冬季観雪 スポーツ	宿泊業	飲食業	不動産 事業	旅行業	貿易業	その他	
先発/ 開拓型	① (有)NAC (Niseko Adventure Centre) ● (社長) Ross Findlay (WJ)	1994年	◎	○		○				○	・ニセコのラフティング事業の代表格で社長のフィンドレー氏はマスコミ露出度が多い
	② (株)NOASC (Niseko Outdoor Adventure Sports Club) ● (社長) Ross Carty (WJ)	1994年	◎			○	△			○	・スポーツ用品等の輸入販売も展開。不動産販売業に着手
	③ (有)SAS (Scott Adventure Sports) ● (社長) Scott Walker (WJ)	1997年	◎	○	(○)	○					
後発/ 進出型	④ (有)Ski Japan ● (社長) Peter Murphy (WJ)	2001年		(◎)			○	◎ (誘致)			・1992年にシドニーでSnowwave社を設立 ・豪州最大のスキーア-販売旅行会社 ・豪州スキー客をニセコに呼び寄せ、24時間サービスを展開、不動産事業にも進出。
	⑤ (株)Niseko Connection (社長) Ben Kerr	2002年?	(○)	(◎)				◎ (誘致)			
	⑥ (株)Niseko Real Estate (社長) Ben Kerr ● (司法書士)吉田聡	2002年					◎				・1995年に休眠会社買収。
	⑦ (有)北海道トラックス (社長) Simon Robinson ● (専務) Matt Denning (WJ)	2003年					◎				(親会社はRed Belly Black社) ・2003年に最初のコンドミニアム建設。 2006年には85の物件に拡大予定。 レルビ・ホテル敷地購入し、ホテル建設予定
⑧ 日本ハーモニー・リゾート (株)NHR ● (会長) Roger Donazzan ● (社長) Colin Hackworth (WJ) ● (監査役) 桜井清貴	2004年		◎ (スキー場)						◎ (ゴルフ場)	・東急不動産から花園スキー場とゴルフ場買収 ・2006年度から第1期工事、10~15年計画で最終的に2000コンドミニアム(5600人程度)	

(注) ● = 今回の調査で聞き取り調査した人物、(WJ) = 夫人が日本人女性(男性はオーストラリア人)